

消防ヒヤリハットデータベース事例回答シート

【事故概要について】

1. 事故・ヒヤリハットの別	事故
2. 体験した事例の名称	石油コンビナート火災消火活動中におけるヒヤリハット事例
3. 体験した事例の中心的要素	石油コンビナート火災消火活動中、現場付近の地面一帯が硫黄臭のする粘土状であったため、その粘土状の物質が火炎の熱により蒸発し、有毒ガスが発生、気分不良を起こしそうなもの。
4. 体験した事例の原因・理由	石油コンビナート火災であることを考慮せず、ガス検知器を使用して現場付近の検知活動及び、防毒マスク・空気呼吸器の装着など、呼吸管理を怠っていたため。

【体験した事例の直接的な原因について】

1. 体験した事例の直接的な原因	状況判断に問題があった。
------------------	--------------

【体験した事例について】

1. 発生日時	平成23年3月16日 午前11時頃
2. 発生した当時の天候	曇り
3. 発生した活動現場	屋外：石油コンビナート敷地内
4. 体験した事例の種類	回答者が、自分自身で負傷した。
5. 事故の程度（ヒヤリハットの場合、仮に負傷したときの程度）	軽傷の怪我
6. どのようなことが起きたのか（起きそうになったのか）	その他：有毒ガスの吸引
7. 事例体験時の活動	火災現場活動中期、[その他：石油コンビナート敷地一帯]
8. （7の活動中）どのような作業中に発生したか	放水活動
9. 同様の体験は、これまでにどの程度の頻度で体験していますか。	初めて体験した

● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ●

○当事者A	年齢[29]歳、勤続年数[4]年、現場経験年数[4] 年、階級[消防士] 同様の活動 [初めて]、任務 [隊員]
○当事者B	年齢[25]歳、勤続年数[3]年、現場経験年数[3] 年、階級[消防士] 同様の活動 [初めて]、任務 [隊員]
○当事者C	年齢[42]歳、勤続年数[20]年、現場経験年数[20] 年、階級[消防士長] 同様の活動 [初めて]、任務 [隊員]
○その他(当事者が4人以上の場合)	

[illegible]

	誰が(何が)	なにをした	その他・備考など
経過1	当事者A、B、C	石油コンビナート敷地一帯の放水活動をした。	
経過2	当事者A、B、C	蒸発した有毒ガスを吸引しそうになった。	
経過3			
経過4			
経過5			
経過6			
経過7			
経過8			
経過9			
経過10			
経過11			
経過12			

[illegible]

○事故の場合：事故が起きたのはどうしてだと思うか？

○ヒヤリハットの場合：ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思うか？

危険情報を把握、予見できなかった。避難退避がうまくいかなかった。

○心理・体調について

a. あせりを感じていた

・早く、現場到着や、活動をしなければならないという“あせり”を感じていた。	はい
・被害拡大が消防活動を上回っており“あせり”を感じていた。	はい
・周辺の野次馬などにより“あせり”を感じていた。	いいえ
b. 注意力が欠如していた	
・1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。	はい
・活動終息（鎮火等）や活動内容が些細だったため注意力を欠いた。	いいえ
・体調不良や疲れにより注意力を欠いた。	いいえ

c. 経験・知識が不足していた。

・活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。	はい
・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。	はい
・活動に対する経験が不足していた。	はい

d. 心身の不調があった。

・体調が悪かった。	いいえ
・悩み事があった。	いいえ

○装備・資機材について

e. 資機材の故障・不具合があった。

・装備・資機材自体に問題があった。	いいえ
・装備・資機材の使用方法が誤っていた。	いいえ
・装備・資機材の対処能力を超えていた。	いいえ
・必要とする装備・資機材がなかった。	はい

○活動環境について

f. 障害物や自然環境(雨・濃煙)によって視界がさえぎられた。

・障害物(建物等)のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ
・特異環境(煙、暗闇、降雨等)のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ

g. 行動しにくい環境だった。

・狭隘な場所であった。	いいえ
・暑かった(寒かった)。	いいえ
・野次馬が多かった。	いいえ
・現場周辺の地理に不案内だった。	はい

h. 足場が悪かった。

・足元が躓いたり滑りやすかった。	はい
・足元の強度が不足していた。	いいえ

○指揮・管理について

i. 適切な指示が得られなかった(適切な指示を与えられなかった)。

・活動指示が得られなかった。(無線が通じない等。)	いいえ
・指示内容に誤り・偏りがあった。	いいえ
・指示内容が実施困難であった。(周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。)	いいえ

k. 関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

・隊員の連携が不十分だった。	いいえ
・隊員が不足していた。	いいえ

○その他

l. その他の理由があった。

--

【事故発生後の取り組みについて】



○注意力欠如、焦り等の対策について

誰も体験したことのない事案なので、一人で活動させず、なるべく隊員全員が見える範囲内で落ち着いて活動し、しっかり声かけ等を実施しながら、同時に安全管理も徹底する。

○装備・資機材の対策について

異臭がすると感じた時には、すでに現場付近に有毒ガスが漂っている場合があるため、異臭を感じる前にガス検知器を使用して現場付近の検知活動及び、防毒マスク・空気呼吸器の着装などで、呼吸管理の対策をする。

○活動環境の対策について

東日本大震災被災地での活動のため、あらゆる環境を考慮して、活動対策を練る。

○指揮・情報伝達の対策について

個々に無線機(署活系)を持たせ、指揮者は拡声器を使用する。

石油コンビナート火災消火活動中におけるヒヤリハット事例

